



張鶴 ZHANG He

張連生 ZHANG Liansheng

奈良県×陝西省 交流の軌跡

奈良県・中国陝西省友好提携10周年記念イベント

日時：2021年11月20日（土） 会場：奈良県コンベンションセンター 天平ホール

「同じ風にそよぎ、同じ月を仰ぎ見る。国はちがっていても」



WANLI Ran

大学文化遺産学院教授

冉万里

陝西省西北大学文化遺産学院教授



YONEKAWA Yuji

米川裕治

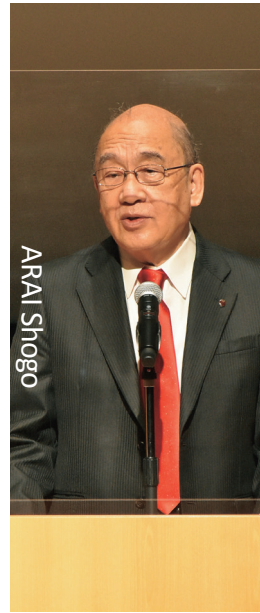
奈良県立橿原考古学研究所 指導研究員



KAWAKAMI Mayuko

河上麻由子

大阪大学大学院准教授



ARAI Shogo

荒井正吾

奈良県知事

本学考古博物館所蔵の遣唐使「井真成」の墓誌は、日中両国友好の確かな証です。唐の王朝政府が「日本」という国号を用い、井真成に高い位を与え、公的に葬儀・埋葬しています。この事実が、日本の遣唐使に対する中国側の好意と期待を示しています。

3か月にわたる陝西省での考古学研修を通して、言語・専門知識の習得や多くの学術的触発を得たが、何よりたくさんの方々ができました。とくに高熱で倒れたときの当地の人々の親切さは忘れられない。人と人のつながりの重要性を痛感しました。

奈良時代・天平期の日本は、最盛期を迎えていた中国・唐の文化を受け容れました。唐もまた友好的な隣国として日本に最も親しみを感じた時期でした。この時の記憶は長く受け継がれ、のちの国風文化を生み出すことにもつながっていったのです。

古代の交流を通じて受けた大きな恩恵を、中国・陝西省と奈良県との友好提携を通して、今日どのようななかたちでお返しできるか。奈良県知事の立場で言うと、共に繁栄する平和な東アジア構築に貢献することはないかと考えており、これからも陝西省との友好関係を大切に続けていきたいと思っています。

平城京が置かれた奈良と、隋・唐の都・長安のあった陝西省。平城遷都1300年を記念して、2011年に友好提携を締結。その10周年を祝う記念イベントが開催された。

荒井正吾・奈良県知事は主催者挨拶で「友好」の意義を真摯に語り、陝西省からは趙一徳・人民政府省長ら要人がオンラインで参加して、これまでの交流の成果や今後の抱負を力強く話した。ついで薛劍・駐大阪中国大使級総領事の心が「ほっこり」暖まる祝辞に、会場は和らいだ空気に包まれた。

基調講演は河上麻由子・大阪大学大学院准教授。天平時代の日中交流の特徴、とりわけ中央アジア（ソグド文化）との関わりや「唐を訪れた日本人たち」に着目した精緻で新鮮な内容に、参加者は熱心に耳を傾けていた。ついで、関口和哉・読売新聞橿原支局長をファシリテーターにパネルディスカッションが行われ、米川裕治・奈良県立橿原考古学研究所指導研究員が陝西省での考古学研修の意義や思い出を語り、オンラインで登壇した冉万里・陝西省西北大学文化遺産学院教授は、遣唐使「井真成」の墓誌について今日的な意味を論じ、あわせて墓葬の規模・形状の推理を披露した。

最後に、張連生・張鶴父子による「二胡」の演奏があった。日中両国の歌が、軽快に流麗に、あるときは荘厳に会場に響きわたった。最後の曲では、草原を疾駆する馬のいななきを二胡が奏でた。

中央アジアからの風が、大陸・半島を経て、ちょうどそのとき、奈良に届いたように感じられた。

（文責：中島敬介）
※本イベントの詳細は、次号に掲載予定です。